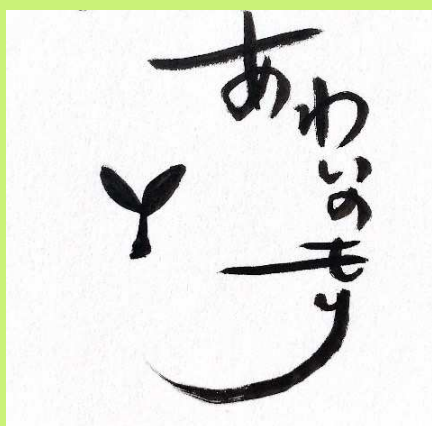


令和6年度市民活動サポート事業成果報告会 里山再生の会あわいのもり



里山再生の会
あわいのもり公式HP

「里山再生の会あわいのもり」検索
Instagram、Facebook登録
お願いします。

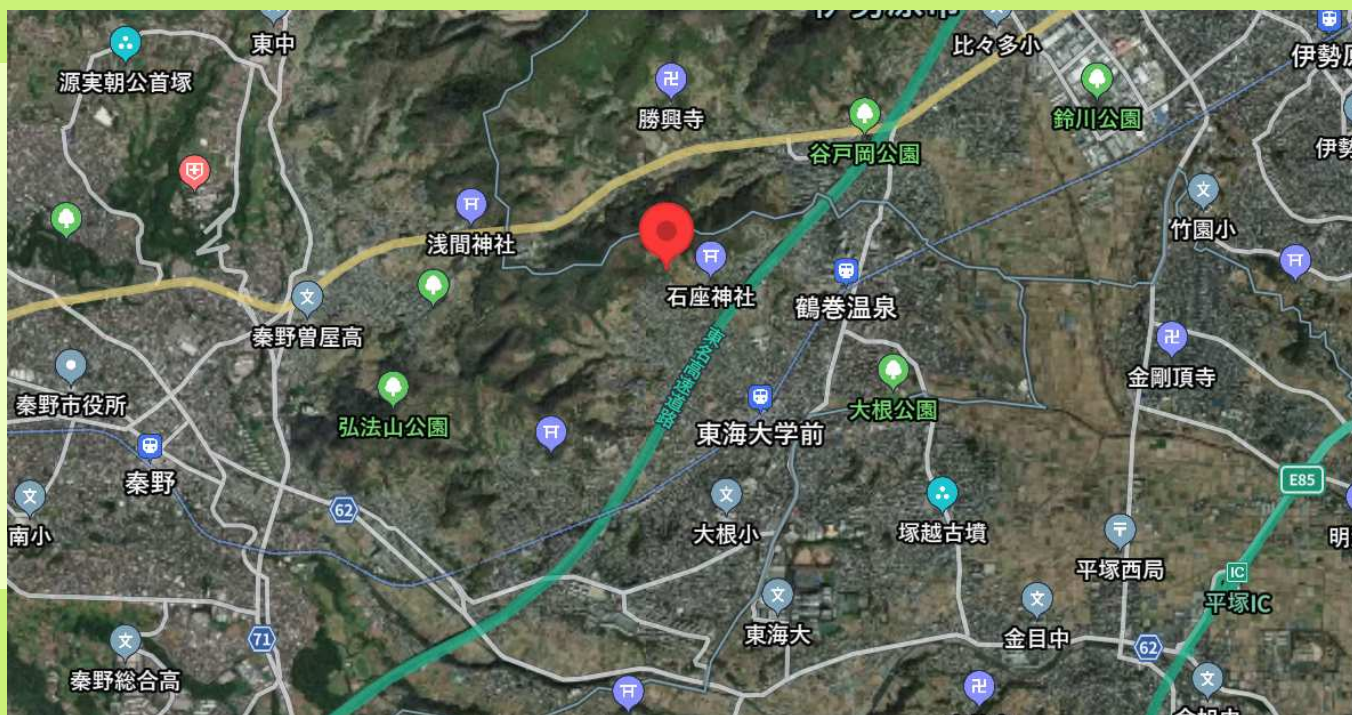


発表
あわいのもり代表
山口 修平



<https://lit.link/egaodeiko3>

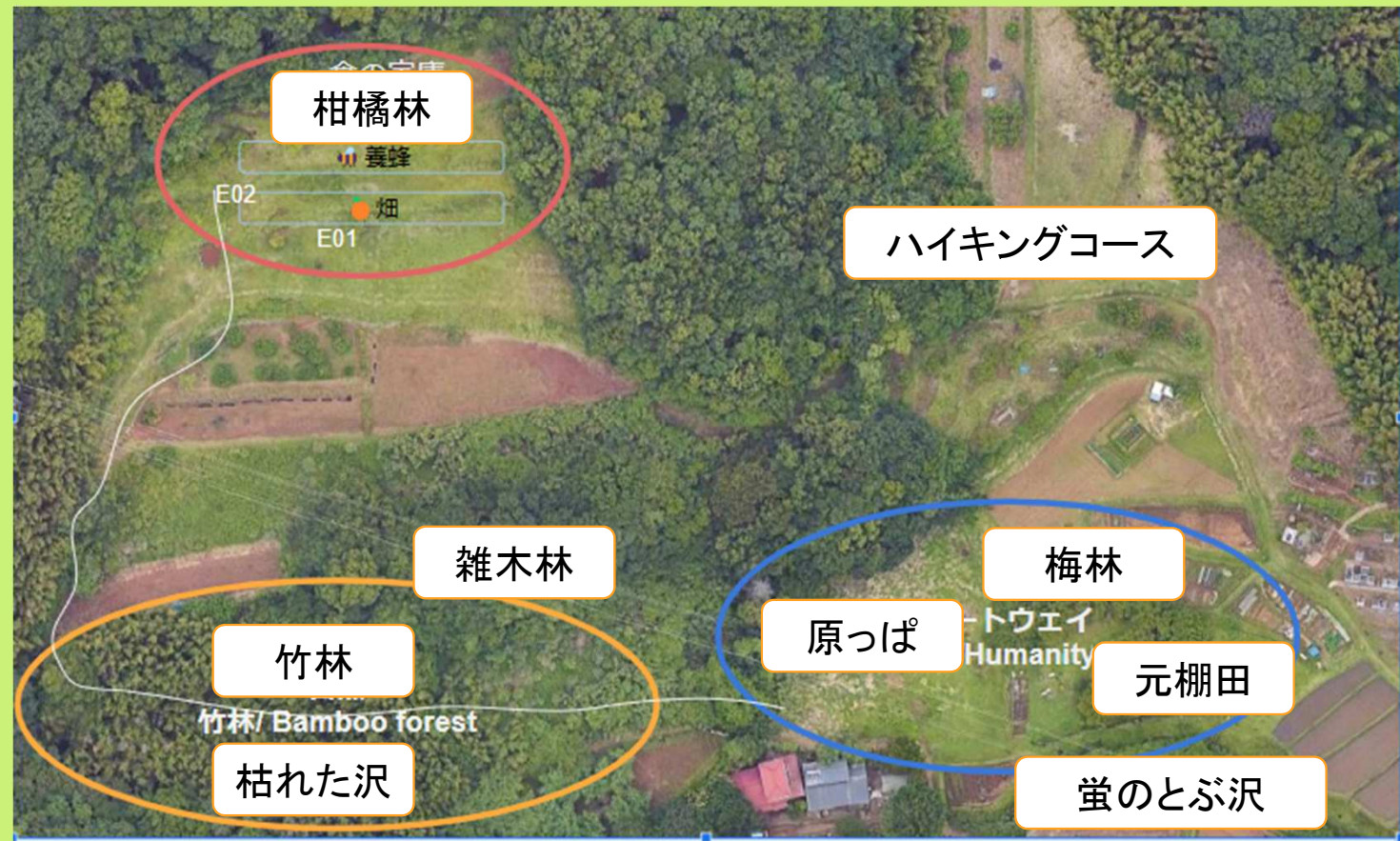
活動場所
秦野盆地東外縁吾妻山麓
小田急鶴巻温泉駅から
徒歩20分の距離
住宅地から近い里山



活動日時：定例活動月2回、夕方を中心に活動するのが特徴
7、8月は活動を全面休止（有志で草刈実施）

「里山再生の会あわいのもり」の活動エリア

弘法山、吾妻山ハイキングコース途中にある元荒廃農地で、柑橘林、梅林、竹林、雑木林、荒地等を含む多様性に満ちた約9,000m²（協定地）以上のエリア



「あわいのもり」にこめた意味

古語の「あわい」＝「間」から。
「完璧」か「全く手をつけないか」
両極端に考えがちだけど、
少しでもやったほうが良いはず！



持続可能なライフスタイルに
組み込みながら
マイペースに自然と関わり
個の楽しみと、古き善きを
次の世代にのこす社会貢献の両立

きっかけ：梅が落果されたまま放置されている梅林

令和3年2月に高齢地主から頼まれたのがきっかけです。

農家の視点で見れば、農地を放置したくもないし、本当は除草剤も使いたくはないのです。



蛍がとぶ沢に隣接しており、
私たちが管理して守っていくことを決意

あわいのもり団体設立以前の記録

	R3.2	R3.10	R4.10	R5.4	R5.11	R6.3	R6.4	R6.8	R6.11	R6.12	R7.2
活動の記録	梅林 (1000m ²) の管理を任される	柑橘林 (1000m ²) の管理を任される	笹藪の開拓始める。 笹藪 (1000m ²) の開拓許可を得る。	四回実施延べ百人の協力 県鳥獣対策課、 ^ユ 秦野、近隣農家と協働 笹藪一斉伐採開始。秦野市農業支援センター、	任意団体 里山再生の会あわいのもり」設立 はだの里山保全再生活動連絡協議会加盟 設立時会員10名	登山家西川史晃氏野営タウンニュース取材 ^ナ 猫のひたいほどワイドで放映 竹林整備開始、笹藪伐採し原っぱに	ホームページ作成、ロゴマーク作成 はだの市民活動連絡協議会加盟 はだの市民活動支援事業支援を受ける	里山実践ワークショップ開始 台風10号で土砂災害の被害を受ける 金井酒造店と梅とウメザケの物々交換協定	神奈川県央SDG「アクション」にて講演 2024つながる未来、拡がる輪！	応援プログラムの助成金受ける パルシステム神奈川より第25回市民活動	の助成金受ける コメリ緑育成財団より第35回コメリ緑資金

あわいのもりの運営状況

令和5年11月スタートアップ事業

令和7年3月（事業終了時）

申請時設立時

会員数	10名
予算	10,000円
資材	会員からの寄付 不足は妥協、活動を制限
情報発信	個々のSNS利用、HPなし
状態	善意、熱量！ 奉仕精神で活動

令和6年度スタートアップ
事業では農具の充実に使
わせていただきました

会員	正会員30名、賛助会員1名 サポーター約50名
予算	約900,000円 (R7.3月時点の総収入額)
リソース	インスタ、Facebook、HP、刈払い機2 ロータリーモア、 農具等
活動数・参加数	31回/約300人
イベント開催数	梅もぎ8回、蜜蜂1回、虫取り1回 ミカン狩り3回
実施研修	鳥獣対策勉強会、標識づくり 里山整備ワークショップ（継続中）
外部参加研修	里山ボランティア養成講座
外部講演・展示	県央SDGs、さがみ自然フォーラム
その他	メディア取材（tvk、タウンニュース） 金井酒造と梅酒オリジナルラベル作成

この1年で重点的に取り組んだこと

この1年
活動をする中で
様々な学びを得、
計画を修正し
里山保全を中心に
シガラで土留めつ
くりや
枯れた沢につなが
る竹林の整備を進
めました。



あわいのもりが大事にしていること

- ・ 事業目的「環境保全」「文化振興と子ども健全育成」「観光振興」
- ・ 令和7年度の主な事業
 - 里山再生、竹林整備、里地再生、ミツバチPJ、里山間応援
 - 普及啓発、里山ふれあい、里山保全技術者育成
 - 私たちの活動の発信、地域振興
- ・ **交流、学び、ソーシャルビジネス。**
 - 例：公式インスタで投稿1回毎に500円の謝礼
 - 里山保全技術を学ぶ者に、団体から講習費を補助

里山と社会のフラクタル

里山を良くすれば、社会も良くなる

人が手を入れた里山は、自然の状態よりも生物多様性に満ち、豊かな生産の余剰を人が享受していました。

人が手をかけなければ、荒れる。

しかし、手をかければ、また蘇る。

我々が息苦しいと感じているこの社会も、きっと変わるのではないのでしょうか。

自分も楽しみながら、社会貢献し、次の世代に大事なモノを遺していく実験を、私たちは行っています。

